

平成16年7月26日
編集発行 女性委員会

〒060 中央区北4条西5丁目 三井生命共同ビル (社)北海道建築士会 ☎ 011-251-6076

全国女性建築士連絡協議会

7月16日、17日 東京都に於て平成16年度の
全国女性建築士連絡協議会が開催されました。
今年、最多の260名の参加があり、テーマ「地域と
共生する住環境づくり」-美しい山・まち・くらし-
について、16日は、活動報告・講演、そしてパネルディス
カッション、17日は、8分科会に分かれ活動報告と
意見交換が行われました。

この日の東京は、25.5度、女性パーで暑が負けず
皆熱心に議論しておりました。それぞれ共通点
を見つけたのではと思います。

—小形記—



委員長・会議報告

全国女性建築士連絡協議会部会長（委員長）会議 報告

- ・各士会の女性委員長48名が出席。 報告者 早川 陽子
- ・「H16 全権女アピール」の発表があり、その後、今年・来年の全国大会、全建女に於ける担当フォーラム、セッションについて内容の報告がありました。
- ・専攻建築士制度とCPD制度の定着に向けて、「2004 レポート」の配布。
- ・連合会青年委員会・女性委員会の統合案については、アンケート集計の現況報告の後、各ブロックからの意見・希望が話されました。主な意見は
 - ① 女性会員は増加の傾向にあり全建女は参加希望も多く、社会的にも大変アピールしている。更に発展してほしい。
 - ② 連合会においては各単位士会の意見を反映させるためにも、女性理事は複数名必要である。（現在は委員長一人）
 - ③ 各単位士会の活動がスムーズに出来るよう、連携を取れる体制が第一である。
 - ④ 現在は、成り立ち、活動の視点・方向性が異なるので統合は希望しない。

お知らせ

北海道女性委員会では、

第3回女性委員会（9月4日（土））にて議題として予定しています。

つきましてはアンケートを同封しますのでご協力をお願いいたします。

シックハウス法案が施行されて1年となります。

現状ではどの様に変ったのでしょうか。「健康な住まいを造る」ために各士会で、それぞれの仕事を通してどの様に取り組んでおられますか。活動されている4士会の方から問題提起をいただき、法案を越え、また建築の枠にとらわれずこれからの「健康住宅」のあるべき姿について全国の女性建築士による意見交換を行いたいと思います。熱心に取り組んでいる方、関心をお持ちの方、参加下さい。

(尚、2時間ではあまりに短すぎるとの意見があり、午後から別室にてさらに2時間をとっています。お時間が許す方は午後も参加下さい。)

とありましたので私は午後からも...

皆さん(参加者は半分位)とお弁当を食べながら参加してきました。

■ 分科会のまとめ

- 換気は地域性ある。 ○ ダクトの中のダニ問題 ○ 換気のメンテナンス問題
- 業界のデータ等をうのみにしない。 ○ 個人の状況を把握
- メンテナンス(自然素材)問題 ○ 地球環境問題

★★ お知らせー 傷病名として「シックハウス症候群」を用いることが可能となりました。★★

(平成16年3月30日保医発033001号)

E分科会 テマ建築物の再生活用

報告者 早川 陽子

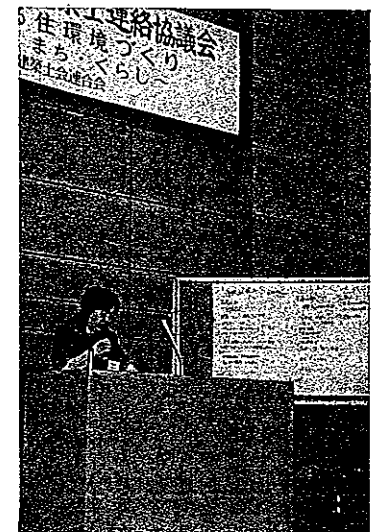
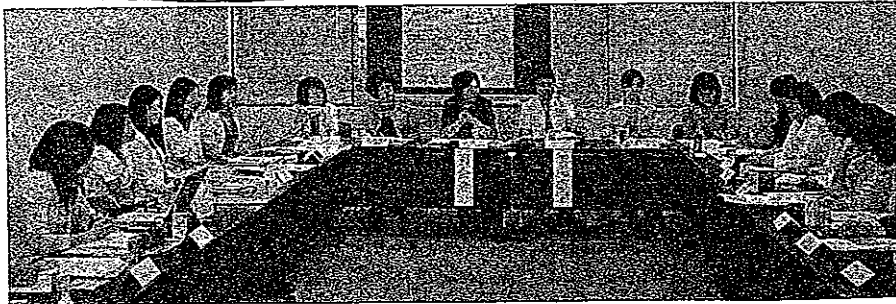
コメンテーターより2つの活動報告がありました。

- ・ 神奈川士会...旧モーガン邸の保存活用運動...市民レベルの活動から。
- ・ 福岡士会...いわゆる・ひとつの・まちづくり(北九州市若松南海岸通りにおける住民との協働及び歴史的建造物を中心としたまちづくり拠点の整備)
- ...NPO法人COSMOSクラブ(建築・デザインにかかわる48名)の設立。
- ・ 活動の背景~経緯と目的~内容~成果~今後の展開~活動のポイントを中心に活発な質問・意見交換がありました。
- ・ まとめとして、

- ① 活動の継続・継承の為に、②人材・組織作り ③資金調達に知恵をだしている。
- ① 継続してゆく活動のためには、情報の早期共有が大切である。
- ② 市民グループとの連携や活動・事業の一般公開はネットワーク作りにも発展する。
- ③ 活動資金の確保手段としては、会費、事業・イベント収入、募金、士会の地域貢献活動基金の活用などが有効である。

等など、スタートは一住民としてわが街の歴史ある街並み・建築物への想いから、ボランティアとはいえ、建築士としての知恵と労力を惜しみなく発揮した報告でした。

F分科会 テマ子供・住環境



司会・アシスタントは、北海道が担当。神戸市と福島市で取り組んでいる、そして実践した住教育の発表がありました。

私達の「子供家・HOKKIDO」の冊子製作の中間報告をお知らせしました。

他に石川県のローコスト委員会、東北三県(青森・秋田・岩手)の親子アンケートの活動報告もあり中身の濃い分科会になりました。

継続的の情報交換が必要と感じました。全体会では、山本さんが発表(写真)を行いました。

—山本の日記—

『不思議なバリアフリー』～街歩きのおすすめ～

2月23日(月) 建築士会事務局・共用会議室において、自称「トマソン研究者」の大石茂晴さんと講師にお迎えして講演会を開催しました。大石さんが街中で見かけた『え？何か変…』『かえって危険!』『誰のため?』『意味ない』バリアフリーを写真と併せて、ユーモアのある語り口で紹介していただきました。なにげなく通り過ぎてしまう施設が「トマソン氏」の鋭い観察眼を通ると、まったく見方が変わります。あらためて、『バリアフリー』『ユニバーサルデザイン』を認識する機会となりました。

今回の企画は 昨年 道史Cブロックで開いた続編です。まだまだ続きがありそうですが 興味のある方は是非 ホームページをご覧ください。

道史Aブロックでは、実際に街中を歩いて自分の眼で見る機会も作りたいと思っています。その折には、たくさんの方のご参加をお待ちしています。

当日は悪天候(ふぶき!)のため参加できない方が多く、9名の参加でした。

(会員の知人・友人を含む)

大石さんのホームページ
『トマソンの着』

道史Aブロック 東 道尾

「全道大会北見大会」 「ピアソン記念館見学」のご案内

9月4日に北見で開催される全道大会で、「DIG ワークショップ in kitami」が女性委員会の分科会にて行われます。「DIG」とは防災訓練のひとつで参加者に災害対策本部の「シミュレーション」をイメージしてもらい、地図上に災害状況や被災者をどうやって助けるか、避難経路などを書きこみながら議論していきます

自分達で「ハザードマップ」を作ることによりその地域の防災上の“長所・短所”がよくわかり、災害時の救援活動などの「イメージトレーニング」にもなります

翌日の9月5日には北見市の指定文化財「ピアソン記念館」の見学会を行います

90年前に建てられたピアソン宣教師の私邸で、大正3年から15年間ここに暮らしキリスト教の伝道に尽くしました

参加申し込みは全道大会については「北海道建築士」の申し込み用紙で、「ピアソン記念館の見学」は広報に同封の別紙でそれぞれ申し込んでください

皆様のご参加を楽しみにしています♪

道東Cブロック 亀岡順子



(ピアソン記念館)

＝函館近郊の歴史をたずねて＝

道南Aブロック 大槻恒世

『見学会 参加申し込みゼロの記』

道南Aブロックでは 上ノ国町にある重要文化財である“旧笹浪家住宅”とその周辺を含めて見学会を計画し、CPDも申請し・・・、その報告を広報に載せてと考えていたのですがそのもくろみは外れました。

そこで『仮想見学会 上ノ国・旧笹浪家及び 江差いにしえ街道』を紙上で開きます。

笹浪家は江差、松前間の海岸沿いの道路に面して在り、ドライブした事がある方なら“屋根の上の置石”のある家を記憶に留められていることでしょうか。約300年前の現存する道内最古の民家建築とされており、平成15年度に上ノ国町による修復工事が終了し一般公開が始まったものです。

建物はニシン番屋の主屋と木造の鞘を持つ土蔵とでなっており、先人の知恵を身近に見ることができます。(http://www.town.kaminokuni.lg.jp/history/sasanami.htm)

江差町では 旧中村家を訪ねます。北前船で盛んに行き来していた時代の間屋建築でこちらも重要文化財になっています。傾斜を利用した細長い建物で浜側は船が直接建物内に着ける造りになって蔵、道に面した母屋へとつながる興味深い建物です。

他にもいにしえ街道沿いには、道指定、町指定の文化財に指定されている建物があります。また少し海岸線から離れたところに位置する旧関川家別荘も江差の最盛期を伝える調度品が多く保存されており庭とともに趣のある一角になっています。

(http://www.hokkaido-esashi.jp/sightsee/index.htm)HPアドレスを書いておきましたので皆様ちよつとご覧になってはいかがでしょうか。現地へは函館から江差まで車で約一時間半、上ノ国はその先10キロくらいでしょうか。JR江差線でも行くことができます。

「高齢者向け優良賃貸住宅」見学会 H16年2月10日(火)

道北Aブロック 杉山 良子(旭川市)

旭川の中心部に高齢者向け優良賃貸マンション(RC造9階建)が着工され、完成間近の建物を、見学させていただきました。高齢者向き施設、マンションなどはとかく郊外に建てられることが多いのですが、旭川市中心部で交通機関・病院・金融機関・公共施設・ショッピングなど徒歩で3～10分という場所です。1.2階は食に関するお店、3階は生活支援サービスとして相談を受けられるシステム、3～9階までは住居エリアとなっており、旭川市の認定を受けた住宅で入居者には家賃の補助が受けられるということもあって、皆さん興味いっぱい熱心に質問しておりました。

今回の見学会は自分達の将来のこともあり近郊の市町村からもたくさん参加していただき、トイレに座ってみたり緊急通報システムを確認したり皆さんいろいろ試していました。広い食事室には、キッチン台もあり仲間といっしょに調理し食事を楽しめるようになっていました。高齢になりひとりでも『仲間ができて楽しく生きていける住居施設』を私たち女性建築士も手がけたいですね。

編集後記

各ブロックからの原稿あらかじゅう頂きました。今年、北海道全域が暑い夏です。アア言ながらもう何んとか発行する事が出ました。後期は、12月の予定もしています。

— 道南Bブロック 小形 —

